

災害に対する大学の取り組み

久留米大学医学部看護学科／大学院医学研究科看護学専攻の
取り組みの一部をご紹介します。

〈 除染活動シミュレーション 〉

エボラ出血熱（エボラウイルス感染症）やMARS（Middle East Respiratory Syndrome：MERSコロナウイルスによる感染症）などの新興・再興感染症の発生や伝播は、当該国だけでなく世界に大きな影響を及ぼすことが示されてきています。

また、放射能汚染やバイオテロなど、増大しつつある危険物にあたっては、確固たる対応の必要性が示されています。これらの発生に対し、迅速かつ効果的に対応し、健康被害を最小限にするため、病院前あるいは現場での除染活動訓練を毎年2回実施しており、隣接する大学病院の救命救急センターや消防署等と協働でのシミュレーション訓練も行ってきました。



〈 水害を想定した保育所との合同避難訓練 〉

久留米大学旭町キャンパスは筑後川の水害ハザードマップで示されるように、低地に立地しており、中でも看護学科の東に隣接する保育所は最も低い立地となっています。そのため、5階建ての看護学科と合同で、有事の為の避難訓練を開催し81名の園児を学科4階地域実習室まで搬送しました。

